

もっしえの〜

2026

4

No. 65

農業委員会広報「もっしえの〜」目次

- P 2 女性農業委員 東北・北海道ブロック研修会
SEADS 修了生の紹介
- P 3 農業者との意見交換会を開催
- P 4 活動報告 委員視察研修
- P 5 委員の改選・募集について
- P 6 加入しています 農業者年金

さくらんぼ畑は剪定作業で春じたく

今春就農予定の庄司求さん。実習では羽黒地区の「くにちゃん農園」へ。園主の妻・阿部彩さんは「おいしい実をたくさん実らせるため、強い木に育つよう剪定を重ねています」と話す。枝を選び、枝を落とす。その一つひとつが、これからの実りを左右する。剪定とは、未来を選ぶ作業なのだ。春を迎える畑に、農家の願いが芽吹く。（松本典子農業委員）

東北・北海道ブロック女性農業委員等研修会報告

「共に担う農業の未来～協働の時代を築く～」

女性委員同士が集い、交流

令和7年12月9日、札幌市「札幌サンプラザ」において東北・北海道の女性委員の研修会が行われました。

12月の北海道ということまで前日入り。心配した天候は折からの寒波で空港の除雪が間に合わず到着が遅れ、更に夜には大きな地震があり研修会を欠席された方もいました。



参加した女性委員のみなさん

協働ではじまる小さな一歩

北海道大学大学院農学研究院准教授 小林国子氏の基調講演をいただいた

き、その後は「協働をすすめるうえで、委員としてできること」をテーマに、各県の委員とグループに分かれ意見交換を行いました。基盤整備がしっかりとできてきている地域の委員からは「大規模法人同士が話し合い地域計画は心配せず進んでいる。」というお話や、中山間地域で活動する委員からは「農家の意向を聞くために自宅に戸別訪問している。」というお話をお聞きしました。各グループの意見を取り入れ、今後の委員活動に役立てていきたいと思います。

(工藤久子 農業委員)



他県の委員さんとの発表の様子

SEADS(鶴岡市立農業経営者育成学校) 令和7年度 修了生をご紹介します!!



- ① 氏名
- ② 出身地
- ③ 就農地域
- ④ 作付品目



- ① 阿部 貴文
- ② 酒田市
- ③ 大山(独立自営)
- ④ 水稲、ふきのとう



- ① 海和 歩
- ② 鶴岡市
- ③ 京田(独立自営)
- ④ ミニトマト、ふきのとう



- ① 木村 真之介
- ② 鶴岡市
- ③ 西郷(独立自営)
- ④ ミニトマト、メロン、キウイ



- ① 庄司 求
- ② 鶴岡市
- ③ 羽黒(親元)
- ④ 水稲、さくらんぼ、桃、ぶどう、そば、ねぎ



- ① 鈴木 美恵
- ② 鶴岡市
- ③ 西郷(独立自営)
- ④ メロン、大根



- ① 長谷川 元生
- ② 東京都
- ③ 西郷(親元)
- ④ メロン、あさつき、ミニトマト



- ① 長谷川 吉乃
- ② 鶴岡市
- ③ 西郷(親元)
- ④ メロン、あさつき、ミニトマト



- ① 山口 周一郎
- ② 鶴岡市
- ③ 羽黒(親元)
- ④ 水稲



★この春、就農される皆さんです。温かい応援をよろしくお祈りします。★

鶴岡市の農業を考える

～農業者等との意見交換会～



農業委員会が担う役割の一つに、農業者等の声を国や県、市の農業施策に反映させるための要望活動があります。今年度は5年ぶりに農業の最前線で活躍されている方々にお集まりいただき、意見交換会を開催しました。

令和8年2月10日、東京第一ホテル鶴岡にて、JA・市農政課・各種農業団体と農業者の意見交換会を開催しました。

新品種「ゆきまんでん」等 今後の展望と要望

第一部では、「山形県農業の現状と今後の展望について」という演題で、山形県農林水産部部長 高橋和博氏より、

- ①担い手・農地集積の課題
 - ②共同利用施設の合理化
 - ③県産米の生産・輸出戦略
 - ④産地園芸品目の維持発展
 - ⑤松くい虫被害への対策
- という5つの項目に関するご講演をいただきました。



近年の農業経営においては、高温化などの気候変動に対する取り組みや対策が大きな比重を占めており、水稲では「はえぬき」に代わる新品種「ゆきまんでん」への転換促進を検討しているとお話がありました。参加された農業者からは、転換時、スムーズに新品種栽培に移行ができる様に要望が出されました。

また、庄内地域海岸沿いを中心とした松くい虫被害についても倒木による施設・人身被害、防風林激減による強風被害・鳥獣害等、二次被害への対応策や予防策についても要望が出されました。

マンダラチャートに挑戦!!

第二部の意見交換会は、メジャーリーグで活躍中の大谷翔平選手が高校時代に活用した『マンダラチャート』を使い「農地集約」「新規就農」「鳥獣害」「農業経営」「遊休農地」「中山間」の6項目を10グループに分かれて意見を出し合いました。

初めて使うマンダラチャートに苦戦しつつも、楽しく話し合うことができました。今回参加出来なかった方もマンダラチャートを使って目標を立ててみることも面白いと思いますので、是非挑戦してみてください！（小林節徑推進委員）



～活動報告～ 農業委員会視察研修



令和7年10月28日から29日の2日間、新潟市と南陽市において農業委員会視察研修を行い、委員12名が参加しました。

新潟市農業委員会 「農業者年金加入推進」

新潟市農業委員会は、海岸砂丘部から平地部まで、地域の45%、3万3千ha程の面積を8区のプロックで管理、水稲や枝豆など本市と共通する作目も多く、大変参考になりました。

新潟市は農業者年金加入実績が全国でも上位に位置しており、女性農業委員が積極的に加入推進活動を行っていました。個別訪問を行う際は、加

入した場合の具体的な試算を提示してお話しすることが効果的、との説明をいただきました。年金加入のメリットを十分理解し、委員自らの言葉で丁寧に説明することの重要性を改めて認識しました。

意見交換では、地域計画の現状と見直し、平地部の鳥獣被害の状況など、幅広い分野についてお聞きすることができ、充実した時間を過ごすことができました。

(佐藤圭介推進委員)



南陽市(株)黒澤ファーム 「若手農業者の農業経営」

二日目は、南陽市にある株式会社黒澤ファームさんを訪問し、常務取締役の黒澤拓真氏より法人の概要や経営の特徴についての講義をいただき、「美味しさと安全にこだわった米づくり」や「高付加価値化販売」についてご説明をいただきました。

就農当初は一心不乱に働いていたが、あるときふと立ち止まり、会社にとって自分はどういう役割を担えるのか、生産責任者として会社の未来をどうしたいのか、と考えるようになったそうです。将来を見据えた熱い気持ちに触れることができ、とても有意義な講義となりました。

今後は管理システムの導入による施肥の適正化、農業機械の無人運転の導入等を予定しているとのこと。食味スコアの向上と農作業の効率化との両立を図り、最少人数で最大の生産性に挑戦している積極的な経営姿勢はとても印象的でした。

講義後は、自社の低温倉庫や精米施設等を見学しました。生産から販売まで一貫した体制の構築や、若手ながら柔軟な発想による経営改善の取組みは非常に参考になりました。多くの学びを得ることができました。

(齋藤万里子推進委員)



農業委員と農地利用最適化推進委員を募集します

鶴岡市農業委員会委員の次期改選（令和8年11月）に向けて、農業委員と農地利用最適化推進委員を下記のとおり募集します。

募集期間

令和8年6月1日(月)～令和8年6月30日(火)

必着

任期

3年(令和8年11月26日～令和11年11月25日)

応募方法

「推薦」と「自ら応募」の2種類の応募方法があります。

推薦の場合は、地域の農業者や農業団体等の推薦が必要です。自ら応募する場合は、応募用紙による提出となります。

いずれの場合も、令和8年6月30日(火)まで、鶴岡市農業委員会事務局（藤島庁舎2階）または各分室へ所定の書類を提出してください。推薦・応募の方法の詳細は「募集要項」をご覧ください。

「募集要項」は、令和8年5月1日(金)から、農業委員会事務局または各分室でお取り寄せできます。また、市のホームページ（<http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/>）でもご覧いただけます。

● 農業委員

募集人数 20人

報酬 43,000円/月（役職委員は増額されます）

主な業務 会議に出席し、農地の貸借・売買、転用許可等の審議を行うほか、農地等の調整、利用状況の調査等を行います。

要件 農業に関する識見を有し、農地等の利用の最適化の推進に関する事項その他の農業委員会の所掌に属する事項に関しその職務を適切に行うことができる者

● 農地利用最適化推進委員

募集人数 31人（担当地区を決めて応募いただきます）

報酬 40,000円/月

主な業務 担当地区での農地の調整、利用状況の調査等を行います。

要件 担い手への農地の集積、耕作放棄地の発生防止・解消など、農地等の利用の最適化の推進に熱意と識見を有する者

※ 推薦・応募の中間状況や最終結果は、市のホームページで公表します。選考結果は、10月上旬に通知します。詳細は鶴岡市農業委員会事務局へお気軽にお問い合わせください。

農業委員会事務局 鶴岡市藤島字笹花25（藤島庁舎内）

電話 0235-64-5868（直通） FAX 0235-64-5846

加入しています

農業者年金

藤島 添川五区

上林 徹さん (39歳)
上林 亜季さん (39歳)

サラリーマンからの転身

藤島地域の添川地区で29haを耕作する上林徹さんと亜季さん。徹さんは平成26年に、亜季さんは令和5年にそれぞれ会社勤めから転身しました。小学5年を筆頭に3人の男児の成長を見守りながら、精力的に農業と向かい合っている頼もしいお二人。

はえぬき20ha、雪若丸2ha、つや姫2ha、計24haの水稲栽培を主軸に、大豆3haのほか2haの畑作に取り組んでいます。



農年加入は家族と農業委員の勧めで

一足早く就農した徹さんは就農した年に父の勧めで農業者年金に加入、亜季さんは地元の農業委員のアドバイスをきっかけに令和7年11月に加入する運びとなりました。

「農業は天候に左右されることが多い、収入には不安定要素がある。将来の貯え、不安への備えとして、国の支援を受けながら確実に積み立てられているという安心感があり、将来受け取れる重要な資産となる農業者年金制度はとてもありがたい。」と話していただきました。

地域の頼もしい担い手に!!

「昨年に父が他界したため、主軸である米づくりの作業分担が一変。昨年の秋作業は試行錯誤の連続だった。」と徹さん。間もなく訪れる春作業に向け、今は作業の段取りを綿密に立てているそうです。

ラーメンの食べ歩きを趣味にしているお二人は、3人のお子さんと共に近場へのお出かけや小旅行を楽しんでいるとのこと。

温厚で明るい若手専業農家は地域の信頼も厚く、将来の担い手として輝きを放っています。
(井上克浩推進委員)

農業者年金は女性にもおすすめ!

- ① 終身年金で長い老後をサポート
- ② 農地の権利名義は不要
- ③ 税制面での大きな優遇措置

・加入には一定の要件を満たす必要があります。
・詳細はお近くのJA各支所、農業委員会事務局・各分室まで!

あ と が き

全国的に「あと5年以内にこの地域でコメを作る人は居なくなる」と危惧されている地域もあるなか、東京大学特任教授の鈴木宣弘先生が農業新聞で以下の3案を提言していた。

- ① 食料安全保障のベースになる農地10a当たりの基礎払いとする。
- ② コスト上昇、価格下落による所得減を直接支払いで補填する。
- ③ 増産したコメや農産物は政府買上げ、備蓄の積み増しを行い、国内外の援助に回す。

食味や生産方式による特徴の差は考慮されていない様だが、これからの政策指標に値するのではないだろうか?
(齋藤智推進委員)

全国農業新聞

毎週金曜日発行

令和8年4月より月額900円(税込)に改定されます。

申込みは農業委員会へ

農業・農政の動きを週1回タイムリーにお届け!



鶴岡市農業委員会事務局

〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花25(鶴岡市藤島庁舎内) ☎64-5868(直) FAX.64-5846
○鶴岡分室 35-1297 ○羽黒分室 62-2527 ○櫛引分室 57-2114 ○朝日分室 53-2117 ○温海分室 43-4616
<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/nougyouiinaki/index.html> 発行/年3回(1・4・9月)